

「2024年中国・浙江大学スプリングスクール派遣報告書」

京都大学総合人間学部2年 KIM YOONKYUNG

1. 学習成果

二週間という短い間であったため、中国語の実力が劇的に向上したとは言えませんが、すべての授業が中国語で行われたため、リスニングとスピーキングのスキルが少し成長できたと思います。京都大学で2年間受講した中国語授業は単語と文法中心でした。そのため、学習した単語と文法を実際に応用してみる機会が少なかったです。さらに、他の専門・教養科目と並行して受講したため、中国語に完全集中できる環境ではありませんでした。しかし、今回のプログラムでは1日3時間、週15時間の中国語授業を受けることで、完全に中国語に集中できる環境が整っていました。文法などを学ぶ精読の授業だけでなく、リスニング・スピーキングの授業もあり、自分と同じレベルの学生たちと中国語でコミュニケーションを取ることで自信がつけました。自分が話す中国語に確信が持てなくても、とにかく積極的に話してみる練習は、内向的な性格の私にとって大きな助けとなりました。正しいかどうかは関係なく、すべての発言が学びになったと思います。このような学習環境で長期間中国語を学べば、早めに上達できると確信し、2週間という短い期間が惜しく感じられました。浙江大学の先生たちも常に学生を励まし、積極的に学習できるようにサポートするため、授業の雰囲気も良かったです。中国語をより頑張りたいという意欲が湧き、将来（大学卒業後に）長期間中国に住みながら中国語を学びたいと思いました。

2. 海外での経験

中国も同じアジア圏だから大きな不便はないだろうと思っていましたが、実際行ってみると困惑な点がいくつかありました。最も大変だったことはインターネット制限でした。普段使っていたGoogleやLINE、YouTube、Instagramなどがすべてブロックされ、VPNがなければメールの確認さえ困難でした。中国の「グレート・ファイアウォール」については以前聞いたことがあって知っていましたが、実際に経験すると予想以上に不便で、最初の数日間は適応するのが大変でした。また、街中や地下鉄の雰囲気も日本とは大きく異なりました。日本では、周囲に迷惑をかけないように静かにするか、小さな声で話す場合が多いです。しかし、中国では大きな声で電話したり、時には押し合ったりして驚きました。さらに、中国の公衆トイレの一部にはトイレットペーパーがなく、常にポケットティッシュを持ち歩かなければなりません。また、和式トイレが主類であったため、洋式トイレに慣れていて私にとっては使い難く、外出先でトイレに行くのを躊躇することもありました。

しかし、逆に満足した点もありました。中国ではQRコード決済システムが普及されていて、Alipay（支付宝）やWeChat Pay（微信支付）があれば、なんでもできて非常に便利でした。わざわざ両替して財布に現金を持ち歩く必要がないのは快適でした。また、中国の料理は油っぽく、辛くて香辛料が強いものが多いですが、私は日本でもよく麻辣湯を食べに行くほど辛い食べ物が好きなので、多様な辛い中華料理を楽しめて嬉しかったです。

3. プログラム内容

今回のプログラムでは、中国語の授業だけでなく、午後に観光スケジュールも含まれていたため、中国初心者の方でも杭州の有名な観光地を簡単にアクセスすることができました。有名な観光地のツアーも良かったのですが、未来科学技術館や傘博物館、川沿いのライトショーなど、今回のプログラムを通じなかったら行きづかったイベントも含まれていて特に良かったと思います。また、日本の他の大学から来た学生たちと観光スケジュールを一緒にこなしたため、中国の情報をお互いに共有したり、各自で気付いた文化の違いについて話し合ったりしました。

最も印象に残ったイベントは、2週目に行われた共同セミナーでした。始まる前までは、全員の前で厳かな雰囲気の中で発表しなければならないと思って緊張しながら準備しました。しかし、実際は小さなグループに分かれ

て、リラックスした雰囲気の中で発表することができて安心しました。セミナーが終わった後、浙江大学の学生たちがディナーパーティーに招待してくれて嬉しかったです。私は翌朝の授業に遅れるのが心配で行けませんでした。参加した京大生たちは皆楽しんだようでした。もし合同セミナーが1週目にあたり、開始時間がもう少し早かったりすれば、浙江大学の学生たちとの交流をより深めることができたのではないかと思います。

4. 進路への影響

現地で中国語を学びながら文化を体験することで、中国と中国語の魅力を改めて感じることができました。中国語がネイティブ並みに流暢な留学生たちと一緒に過ごす中で、私も上手になりたいという言語的な刺激をもらいました。次また中国に行く時には、中国語を日常会話に困らないレベルまで引き上げることが私の新しい目標となりました。

また、ニュースなどのメディアを通じてしか知らなかった中国の技術発展を杭州という中国の主要な「テクノロジーハブ」で直接経験したことも、私の視野を広げたと思います。杭州のシリコンバレーと未来科学技術館で見たさまざまな技術や機械を通じて、中国が今後どのような経済発展を遂げるのか期待が高まりました。私の夢は国際弁護士として活躍することですが、日中関係だけでなく、中国との関係についても真剣に考えるようになりました。東アジア三国が向かい合う課題解決に貢献したいという願いに、一歩近づくことができた貴重な経験になったと思います。